

苦小牧駒澤大学
民族文化資料室
(仮称)

苦小牧駒澤大学

ごあいさつ

苫小牧駒澤大学

学長 片山 晴賢

「苫小牧駒澤大学民族文化資料室」へ、ようこそいらっしゃいました。当資料室は、本学の開学 10 周年を記念して、多くの皆さまのご支援を賜って開設に至ったものです。

本学は、1998 年 4 月、胆振・日高地方唯一の文科系大学として、国際文化学部を擁し、公私協力のもとに産声をあげました。その目的は、学校法人駒澤大学の建学の理念でもある仏教の「行学一如」の精神を備えつつ、現代社会のなかで有為に活躍する人材を育成することにあります。また、本学の立地する胆振・日高地方は、先住民族であるアイヌ民族の方々の文化伝承の中心地の一つであることから、開学当初より「環太平洋・アイヌ文化研究所」を設け、アイヌ文化をはじめとする環太平洋諸地域・諸文化の研究・教育・振興にも力を入れてまいりました。このような経緯のなかで、当資料室の開設に至ったことは、誠に喜ばしい限りです。

グローバル化の進む現代世界は、同時にローカリズム、地域文化の重視される時代でもあります。当資料室は、狭いスペースながら、本学の立地する北海道、胆振・日高地方の古代文化から出発して、アイヌ文化の過去・現在・未来を紹介し、さらには皆さまを人類の多彩な文化と可能性、将来の展望へのご案内しようという意図を凝縮してつくられております。その試みがどの程度成功しているかは、皆さまのご判断に委ねるほかはありません。どうか忌憚ないご意見をお寄せください。

なお、本資料室の開設は、本学の学生たち自身のフレッシュな発想と、惜しみない協力抜きにはなしえないものでした。展示資料の多くが、各国の留学生たちから寄せられたものであることも記しておきたいと思います。末筆ながら、本資料館の設置にご尽力いただいた全ての皆さまに対し、深甚なる感謝の気持ちを表します。

コーナー展示解説

北海道の古代文化

北海道の歴史年表には、本州の時代区分とは大きな違いがある。縄文時代のあと、九州や本州には稲作農耕や金属器文化を伴う文化が大陸から流入し、弥生文化が成立する。ところが、弥生文化は北海道の時代区分には存在しない。またその後、本州では、政治的社會が発展し国家の形成へと向かうが、北海道の歩みはそれとは違う方向に進んだ。

本州の弥生時代・古墳時代に当たる時代は、北海道では続縄文時代と呼ばれている。続縄文時代には、北海道の豊かな自然環境のもとで、高度な狩猟・漁労・採集などの技術・文化が開花した。一方では、弥生文化との交流や影響もみられ、金属器文化も北海道に伝わっている。近年、「続縄文」という呼び方には、縄文文化の残存という否定的なニュアンスが伴っているので、呼称を変更しようという提案もみられる。

アイヌ文化のいま

アイヌ民族は、北海道(アイヌモシリ)に先住する人々として、周辺諸地域と交流しながら、多様で豊かな文化を築いてきた。

しかし、近代になると、アイヌ民族の伝統的な生活は、明治政府の政策により大きな変化を強いられた。その結果、それまでの伝統的な生活スタイルから、和人の生活スタイルへと変容せざるを得ず、多くの困難を乗り越えなくてはならなかった。

そのような状況が続くなか、今日ではアイヌ民族としての意識や誇りを持ち、文化伝承に積極的に取り組む人々が増えている。そして、そのための環境も整いつつある。現代においてアイヌ文化を振興するうえで、アイヌ文化における本来の考え方や精神など、基礎となる部分を理解することは必要不可欠である。そのため、アイヌ伝統文化を深く学び、先人の智慧や技術を習得することも重要である。

アイヌ文化は、ある時期を境にして、親から子へと継承されてきた文化の歩みを止めざるを得ない状況が続いたが、人々の努力によって、現代文化として新たな発展の時期を迎えている。以上の点をふまえ、このコーナーは、アイヌ文化に受け継がれてきた文様やデザインを中心とした展示となっている。

行学一如

苫小牧駒澤大学は、学校法人駒澤大学の一翼として、仏教の「行学一如」の語を建学の理念としている。それは、曹洞宗の開祖、道元禅師の教えに由来するものであり、換言すれば、「学問と実践は一体でなければならない」という精神といえる。本学ではこの理念に基づき、知と心のバランスを大切にする優れた人材を育成し、世に送り出している。

多様なアジア

本学には、中国、韓国、台湾、内モンゴル、ベトナム、スリランカなど、世界の各地域からの留学生が在籍している。そのため様々な民族間の文化交流ができる。このような展示を行うことができたのも、本学の留学生に協力を仰ぎ、各民族の伝統衣装や民具をお貸し頂けたためである。

このコーナーには、アジアを中心とする各民族の衣装、工芸品などを展示した。その中には、現在も変わらず使用されている物や、昔は持ち歩いていたが現在は家の中にインテリアとして置かれている物、現代的な物に伝統的なデザインが施される場合などがある。いずれも、伝統文化が現在に生きる様子を感じさせてくれる。

現在では、洋服の普及もあり、各民族の伝統衣装は祭事に参加するときなどにのみ着用され、普段着としてはあまり使われなくなっている。しかしそれぞれの民族・地域の文化は、変容を受けながらも確実に受け継がれ、生活のなかに息づき続けているのである。

交流する世界の人々

本学では、世界の人々との交流を行っている。このコーナーに展示されている資料も、本学の教職員・学生たちの文化交流によって収集されたものである。

文化がひらく未来

我々が先人からの文化の継承を必要とするのは、過去へのノスタルジーゆえではない。ましてや、ただ昔からの伝統であるから継承するのでもない。文化が過去に人々の経験や努力から得た教訓や知識の結晶だからこそ、この宝石を受け継ぐのである。後ろを振り返らず、その場の利益だけを追求する現代では、多くの人々が、伝統文化など消え行く過去の遺物のように考えてきたが、そうではない。むしろ大量生産、大量消費の社会が限界を迎えるなかで、自然との調和を重んじた伝統的な文化が、人類の新しい価値観として再びこの世界に輝こうとしている。

謝辞

当資料館の開設に当たり、下記の方々にご指導・ご支援・資料提供等を賜りました。記して感謝申し上げます(順不同、敬称略)。

阿部珠江 浅山大樹 砂澤代恵子 武永真 坂本恭啓 乾哲也 田口尚 新井田剛史
角田文子 渋谷あゆみ 白純子 スウ・ユウ ナランゴワー オンドラホ デリグルマ
元賢珍 ナディカ・バスナカヤ 白老町教育委員会 厚真町教育委員会
仙台藩白老元陣屋資料館 苫小牧市博物館 本学アイヌ刺繍講座

企画・担当

当資料室の展示は、本学教員、及び本学に於いて学芸員資格取得課程を修了した学生によって企画されました。各コーナーの担当者は、以下の通りです。

北海道の古代文化	准教授	蓑島栄紀
アイヌ文化のいま	3年	安藤匡孝
行学一如	4年	長坂信司
多様なアジア	4年	朝日秀道
交流する世界の人々	4年	長坂信司
文化がひらく未来	4年	木田稔基
(全体統括)	教授	岡田路明